

童謡のふる里おおとねには、町民が自ら発案したことを実現するための支援制度があります。「自ら考え自ら行うまちづくり支援事業」です。商工会青年部が「自分たちの手で第2のモーニング娘を！」のスローガンのもとに行った「歌姫ユニットコンサート」もこの事業の一つです。これは「モーニング娘」のように全国区で活躍できるグループを育てれば、全国に童謡のふる里おおとねをPRできる、という商工会青年部の熱い思いを町がバックアップしたものです。

こうして生まれたアイドルグループ「ピンキッシュ」(大利根町特産のイチゴのピンクとフレッシユから名付けました)は、11歳から23歳までの女の子5名による歌姫ユニットで、童謡をアレンジした曲を中心に町内外でのライブを行っています。



童謡を歌うアイドルグループ「ピンキッシュ」

町民のアイデアで 童謡を全国の若者たちに

自然に若者が歌える童謡「特に『童謡』を歌っているという感覚はありません。アレンジした曲なのでノリも良くて、踊りながら楽しく歌っています。」と現代っ子らしく答える、リーダーの安藤貴子さん。他のメンバーも「童謡を歌うのは自然なこと。昔の曲でもいい曲はいいと思います。」と自然体で童謡を歌っている様子。下総皖一作曲の童謡をピンキッシュが歌うCDも発売されました。

さらに広がる町民のアイデア 「童謡のふる里を映画に」

さらに商工会青年部は、「ふる里大利根町を舞台に映画を作りたい」という夢を温めてきました。そして今回これが実現しました。映画「初恋のふる里」です。年に一度しか会えないという「たなばた」の「織り姫と彦星」の伝説を元に、橋を挟んだ北川辺町と大利根町に住む熟年の男女がその子どもたちの発案で約二十年ぶりにたなばたの日に再会するというお話です。この映画には映画初挑戦とは思えない堂々とした演技で観客を魅了したピンキッシュのメンバーが出演しています。

童謡とアイドル。そしてアイドルによるまちおこし。この一見不釣り合いな組み合わせも、童謡のふる里大利根町では童謡という一つの素材を通じてその新しいカタチが自然に育ち始めています。

下総皖一を顕彰している町内団体「下総皖一を偲ぶ会」。埼玉会館友の会が昭和62年に下総皖一童謡音楽賞を作り、その活動に関わっていた新井陽一さんが大利根町を訪れ、様々な人に下総皖一の顕彰会を作ろうと勧めたのが設立のきっかけとなりました。会員は360名を越え、現在中島睦雄さんが会長を務めています。

下総皖一の童謡と 童謡のふる里おおとねを全国に発信 ~下総皖一を偲ぶ会~

みんなにライトを振ってもらおうパフォーミングも好評で、偲ぶ会はサミットの関係者の中で一番親しまれる団体となりました。そのおかげで、参加した北海道から沖縄までの童謡団体のみなさんの中で、下総皖一と「童謡のふる里」大利根町を知らない人はいない、というほどになりました。サミットで交流を深めたことで、長野県の童謡唱歌を愛する会が大利根町に来町したり、たなばたまつりを盛大に行っている平塚の団体が「たなばたさま」の作曲者の町である大利根町を訪れたり、様々な交流を生んでいます。また、偲ぶ会から派生した「野菊の会」では町内外160名以上の会員が老いも若きも、上手下手に関わらず歌うことを楽しんでいます。

「童謡のふる里」である大利根町を全国に情報発信しています。毎年参加する全国童謡サミットでは、偲ぶ会の皆さんが交流会で下総皖一作曲の「ほたる」を歌います。会場の人全員に持参したペンライトを渡して、メロディに合わせて



下総皖一の童謡、そして童謡を通じたまちづくりは町民のこうした確かな活動によつて、支えられ、形作られています。それは下総皖一を偲ぶ会会長の中島睦雄さんのこの言葉に表されています。

「全国を廻りましたが、まちおこしにこんなに童謡を用いているところは少ないです。童謡を後世に歌い継ぐためには、行政と民間団体がしっかりと手を携えて常にお互い努力していくことが大切だと思います。」

自然をあいする住み手と共に

確かな材質と伝統的工法が織り成す住環境

株式会社 小谷野工務店

TEL 0480-72-2439 FAX 0480-72-1866

埼玉県北埼玉郡大利根町大字北平野150番地 - 2

軽自動車から大型車まで 車のことならお任せ下さい



修理・車検・車の購入何でも気軽にご相談下さい

高瀬自動車工業

大利根町大字阿佐間130

電話 72 - 4403

FAX 72 - 6400